

釧路湿原自然再生協議会

第2回 生態系再生小委員会

資 料

令和7年9月29日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

－ 第 2 回 生態系再生小委員会 －

日時：令和 7 年 9 月 29 日（月） 8：30～17：00

場所：自然再生実施箇所現地及び釧路町公民館 1 階大会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 現地視察（8:30 合同庁舎出発 バス移動）
 - 1) ヌマオロ地区（旧川復元箇所 10:10～10:50）
（国土交通省北海道開発局釧路開発建設部）
 - 2) 雷別地区（森林再生箇所 12:25～13:15）
（林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター）
 - 3) 達古武湖（湿原再生箇所 14:15～14:55）
（環境省 釧路自然環境事務所）

 2. 室内会議（15:10～16:40）
 - 1) 全体構想見直しに係る各取組の点検・評価について（60分）
（小委員会事務局）
 - 2) 釧路川（釧路湿原）植生面積の比較整理
雪裡地区の自然再生検討について（12分）
（国土交通省北海道開発局釧路開発建設部）
 - 3) 雷別地区自然再生事業（森林再生）について（10分）
（林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター）
 - 4) 達古武地域自然再生事業（森林再生）について（5分）
（環境省 釧路自然環境事務所）
- （バス移動 17:00 合同庁舎解散）

----- 配 付 資 料 -----

- 第 2 回 生態系再生小委員会 資料 ----- (資料 1)
 - 出席者名簿 ----- (資料 2)
 - 座席表 ----- (資料 3)
 - 室内会議説明資料 ----- (資料 4)
 - 自然再生事業点検シート ----- (資料 5)
 - 現地視察資料 ----- (現地視察資料①・②・③)
-
- 第 1 回生態系再生小委員会 ニュースレター

—釧路湿原自然再生協議会—

第2回 生態系再生小委員会 委員名簿

■個人（49名）

（敬称略、五十音順）

No	氏名	所属
1	赤坂 泰志	
2	荒谷 邦雄	九州大学大学院比較社会文化研究院 教授
3	植村 滋	元北海道大学
4	岡田 操	(株)水工リサーチ取締役
5	折戸 聖	公益社団法人 北海道栽培漁業振興公社
6	加藤 ゆき恵	釧路市立博物館
7	金子 正美	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類
8	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
9	川尻 洋志	太平洋総合コンサルタント株式会社 環境科学部 部長
10	川西 亮太	北海道教育大学釧路校 准教授
11	神田 房行	北方環境研究所所長（元 北海道教育大学副学長）
12	木附 晃実	九州大学基幹教育院共創学部 准教授
13	工藤 知美	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
14	坂井 一浩	八千代エンジニアリング(株)北海道営業所
15	櫻井 一隆	
16	貞國 利夫	釧路市立博物館
17	佐竹 直子	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊
18	新庄 興	
19	新庄 久志	釧路国際ウエットランドセンター 技術委員会委員長
20	杉澤 和之	
21	杉澤 拓男	
22	関 基	エイト日本技術開発 防災保全事業部
23	高嶋 八千代	
24	竹中 康進	環境省
25	照井 滋晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG
26	中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師
27	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 名誉教授
28	根岸 淳二郎	北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授
29	野本 和宏	釧路市立博物館
30	橋本 敏彦	
31	長谷川 理	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所
32	早川 博	北見工業大学 工学部社会環境工学科 特任教授
33	針生 勤	
34	日野 彰	
35	平間 清	(有) 平間ファーム

次項に続く

No	氏名	所属
36	福田 兼三	釧路自然保護協会
37	福田 貴志	釧路自然保護協会
38	藤岡 悠一郎	九州大学共創学部 准教授
39	松橋 尚文	釧路自然保護協会
40	松本 文雄	
41	森本 淳子	北海道大学大学院農学研究院 教授
42	矢吹 哲夫	北星学園大学 経済学部 客員教授
43	矢部 和夫	札幌市立大学 名誉教授・専門研究員
44	山田 朋人	北海道大学大学院工学研究院 教授
45	山田 浩之	北海道大学大学院農学研究院 講師
46	山本 太郎	一般財団法人 北海道河川財団
47	吉中 厚裕	酪農学園大学 環境共生学類
48	渡部 哲史	九州大学
49	渡辺 剛弘	上智大学

■ 団体 (27名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	王子ホールディングス株式会社	代表取締役社長 磯野 裕之
2	株式会社ニチモク林産北海道※	代表取締役社長 小田 弘昭
3	釧路川カヌーネットワーク協会	会長 小川 清史
4	釧路川流域町村観光推進協議会	会長 橋口春樹
5	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 鶴間 秀典
6	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 田名部 英樹
7	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
8	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
9	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 鶴間 秀典
10	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 田名部 英樹
11	釧路造園建設業協会	会長 吉田 英司
12	釧路武佐の森の会	会長 大西 英一
13	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
14	公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修
15	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 大原 雅
16	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 寒地河川チーム	上席研究員 堀田 伸之
17	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 横山 洋
18	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
19	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男
20	道東のイトウを守る会	会長 神田 房行

次項に続く

No	団体/機関名	代表者名
21	塘路ネイチャーセンター	齋藤テディ
22	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
23	特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 大西 英一
24	特定非営利活動法人 くしろ・わっと	理事長 小林 友幸
25	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
26	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
27	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 齋藤テディ

■オブザーバー（6団体）

（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	釧路東森林組合	代表理事組合長 及川 広樹
3	標茶町森林組合	代表理事組合長 東理 義一
4	弟子屈町森林組合	代表理事組合長 小野寺 靖
5	鶴居村森林組合	代表理事組合長 松井 洋和
6	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 千葉 喜好

■関係行政機関（8機関）

（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 畑山 明
2	環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	所長 岡野 隆宏
3	林野庁 北海道森林管理局	局長 関口 高士
4	北海道 釧路総合振興局	局長 寺田 宏
5	釧路市	市長 鶴間 秀典
6	釧路町	町長 小松 茂
7	標茶町	町長 佐藤 吉彦
8	鶴居村	村長 大石 正行

第1回生態系再生小委員会の発言概要と今後の検討方針

項目	発言概要（課題）	回答及び今後の対応方針
幌呂地区 湿原再生 について	<ul style="list-style-type: none"> ・A区域とB区域の2つの区域に分けているが、それぞれ目標にしている植生は違うのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A区域では、ヨシやスゲ等の湿原植生の再生を目的としており、B区域ではハンノキの成長抑制を目的としている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・幌呂地区B区域の排水路せき止めについて、周辺農地利用の観点で残すことにしている排水路の影響を大きく受けているのではないかと考えている。排水路の必要性について改めて検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幌呂地区の周辺農地は計画当時から変わっておらず、幹線排水路をせき止めるのは困難と考えている。地域と協議しながら順応的に考えていく。
達古武湖 湿原再生 について	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒシ刈りの事業が継続できないと、これまで効果が得られていた状況が、また元に戻ってしまうのではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒシ刈りを継続しないと元に戻ってしまうのはそのとおりであり、効率的な実施方法や、今後取組を関係者協働・参加型で行う体制づくりをどうしていくか検討しているところである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒシの繁茂の原因は周辺の森林伐採による土砂・栄養塩の流入が大きいと考えている。達古武湖流域の開発行為の抑制や、流域を保全することを考えなければ湿原を保全できない。国立公園を拡大する等の取組も必要であると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実関係を確認のうえ、必要な対応を今後検討していく。
広里地区 湿原再生 について	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤切り下げ効果は限定的とのことであるが、どのような場合に有効だったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧雪裡川への排水阻止対策を行う場合、地盤切り下げと合わせることで効果があると考えている。

第1回生態系再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（続き）

項目	発言概要（課題）	回答及び今後の対応方針
ヌマオロ地区旧川復元について	<ul style="list-style-type: none"> ・ヌマオロ地区の旧川復元事業の目的に湿原植生の回復があるが、次年度のモニタリング項目に含まれていないのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度(令和6年度)に通水し、今後直線河道の埋め戻しを実施するため、その後に植生を含めたモニタリングを行う予定としている。
雪裡地区自然再生について	<ul style="list-style-type: none"> ・雪裡川はカワシンジュガイが生息しており、鶴居芦別川にはサケが遡上しているため、事業実施の検討において降下・遡上環境に影響が出ないように配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討にあたっては、水産資源も含めて配慮していく。
雷別地区森林再生について	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック製品を減らしていくという機運が高まっているところ、プラスチック製の保護管を使用している理由を教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ、エゾユキウサギによる食害対策は保護管による被覆が効果があるため使用している。 ・引き続き、保護管の劣化状況を観察していく。